

平成19年度成果重視事業評価書要旨

評価実施時期：平成19年8月

担当部局名：健康局結核感染症課

事業名	感染症発生動向調査事業																							
政策体系上の位置付け	<p>基本目標 I 安心・信頼してかかれる医療の確保と国民の健康づくりを推進すること</p> <p>施策目標 5 感染症など健康を脅かす疾病を予防・防止するとともに、感染者等に必要な医療等を確保すること</p> <p>と</p> <p>施策目標 5-1 感染症の発生・まん延の防止を図ること</p>																							
事業の概要	<p>感染症発生情報をリアルタイムで各自治体に提供し、感染症の発生・拡大を防止するためのシステム開発・整備を行う事業である。</p>																							
<p>施策に関する評価結果の概要と達成すべき目標等</p>	<p>【評価結果の概要】</p> <p>(有効性) 定量的目標である『「細菌性赤痢」「腸管出血性大腸菌感染症(O-157等)」の年間報告数10%削減』については、 ①「細菌性赤痢」においては、平成11年度の現行感染症法施行後、17年度末までの平均報告数(661)と、平成18年度報告数(速報値)を比較すると、約27%の減少を示している。また、平成17年度と18年度の比較(システム稼働開始は18年4月)でも13%減少しており、一定の効果があったものと考えられる。 ②腸管出血性大腸菌感染症については対平均報告数、対前年報告数ともに増加しており、今後の報告数の推移を見守りたい。</p> <p>(効率性) システムは安定稼働(※参考)しており、自治体等関係者へのリアルタイム情報還元が実現されたことによって感染症対策の迅速な実施が可能となったが、これは他の手段によっては代替できないものと考えられることから、一定の効率性を有するものである。</p> <p>※参考 「感染症発生動向調査における集計等システムSLA報告書」より 1. システム稼働率(※) 100.0% 2. システムレスポンスタイム 1.0~3.3秒 3. ソフトウェア品質 致命的バグ 0件</p> <p>※システム稼働率=(総稼働予定時間-システム停止時間)/総稼働予定時間</p> <p>(政策等への反映の方向性) 評価結果を踏まえ、今後の感染症発生動向調査事業及びシステム構築のあり方について検討を行う。</p> <p>【達成すべき目標、測定指標、目標期間、測定結果 等】</p> <table border="1" data-bbox="347 1525 1442 1778"> <thead> <tr> <th colspan="2">参考指標</th> <th>H14</th> <th>H15</th> <th>H16</th> <th>H17</th> <th>H18</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>細菌性赤痢 年間報告数(単位:件)</td> <td>699</td> <td>473</td> <td>594</td> <td>553</td> <td>速報値 483</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>腸管出血性大腸菌感染症 年間報告数(単位:件)</td> <td>3,183</td> <td>2,999</td> <td>3,715</td> <td>3,589</td> <td>速報値 3,910</td> </tr> </tbody> </table> <p>(調査名・資料出所、備考) ・ 指標1及び2は、感染症発生動向調査(結核感染症課調べ)による。なお、平成18年度の数値は速報値であり、平成19年10月確定値を公表予定である。</p>			参考指標		H14	H15	H16	H17	H18	1	細菌性赤痢 年間報告数(単位:件)	699	473	594	553	速報値 483	2	腸管出血性大腸菌感染症 年間報告数(単位:件)	3,183	2,999	3,715	3,589	速報値 3,910
参考指標		H14	H15	H16	H17	H18																		
1	細菌性赤痢 年間報告数(単位:件)	699	473	594	553	速報値 483																		
2	腸管出血性大腸菌感染症 年間報告数(単位:件)	3,183	2,999	3,715	3,589	速報値 3,910																		
<p>関係する施政方針演説等内閣の重要政策(主なもの)</p>	<p>施政方針演説等</p>	<p>年月日</p>	<p>記載事項(抜粋)</p>																					